

# 青森県水産修練所（漁民道場賓陽塾）の所歌について

昭和19年本所の所歌の作詞を依頼された土井晩翠は、とき恰も太平洋戦争の真つただなかでどのような心境で依頼を受けたであろう。

土井晩翠は、本場の前浜に立たずみ、太平洋の荒波を見ながら思考したものであろうか。

そのとき鮫小学校、鮫中学校でも校歌を依頼したという。そのためか両校の校歌は似かよっているともいわれている。

一方 作曲した福井文彦は仙台放送管弦楽団の指揮者で、全国でも知れ渡った日本を代表する音楽家で長年音楽界の要職に就いていた。

このようにして、昭和19年本所の所歌が完成した。

なお、鮫小の校歌は昭和21年春に、鮫中の校歌は昭和22年11月3日に、それぞれ土井晩翠の作詞で完成されている、終戦後間もない時期であった。

## 青森県水産修練所歌 (海洋学院歌)

作詞 土井晩翠  
作曲 福井文彦

にっ ぽん ほー んど きたの は し け  
ん は あ お も り は ち の へ し ぎ よ  
み ん の た め に ー も ー け た る し ゅ  
ー れ ん じ ょ う の け ん じ だ ん

### 県水産修練所歌 (海洋学院歌)

- 一、日本本土北の端  
県は青森八戸市  
漁民のために設けたる  
修練場の健児団
- 二、四方波捲くわが祖国  
自然の恵海の幸  
とりて利用し厚生  
道につとむる健児団
- 三、たんきんちゆう暖潮寒潮乗り越えて  
銀鱗おどるただ中に  
青春若き脈高く  
雄叫進む健児団
- 四、風濤萬里荒ぶとも  
凌ぐ剛健鉄の四肢  
心もつねに明朗に  
磨き修むる健児団